

平成27年度 事業報告書

(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)

学校法人 東京音楽大学

目 次

第一 法人の概要

1. 設置する学校等 3
2. 沿革 4
3. 定員、学生・生徒・園児数 4
4. 学校法人役員等 4
5. 教職員数 5

第二 事業の概要

- 総括 5

第三 項目別概要

1. 人事 5
2. 施設整備 6
3. 入試・広報活動 6
4. 大学、大学院
 - (1) 学生募集 6
 - (2) 教育課程 7
 - (3) 演奏活動 7
 - (4) 音大連携事業及びACTプロジェクト 8
 - (5) 学生支援 9
 - (6) キャリア支援 9
 - (7) 国際交流 10
 - (8) 大学院 11
5. ファカルティ・ディベロップメント (FD) 13
6. 自己点検・評価 13
7. 教員研究費 14
8. 地域連携 14
9. 後援会、校友会等との連携 15
10. 附属図書館 15
11. 附属高等学校 15
12. 附属幼稚園 16
13. 附属音楽教室 16
14. 附属民族音楽研究所 16
15. 財務報告 (別冊) 17

平成27年度 学校法人東京音楽大学 事業報告書

第一 法人の概要

1. 設置する学校等

東京音楽大学

大学院音楽研究科
(博士後期課程)

音楽専攻

大学院音楽研究科
(修士課程)

器楽専攻

鍵盤楽器 弦楽器 管打楽器 室内楽

声楽専攻

独唱 オペラ

作曲指揮専攻

作曲 指揮

音楽教育専攻

音楽教育 音楽学 ソルフージュ

音楽学部音楽学科

器楽専攻

ピアノ ピアノ演奏家コース
ピアノ演奏家コース・エクセレンス
コンポーザー＝ピアニストコース
ピアノ・創作コース
チェンバロ オルガン
ヴァイオリン ヴィオラ チェロ
コントラバス ハープ
クラシックギター
フルート オーボエ クラリネット
ファゴット サクソフーン
ホルン トランペット トロンボーン
チューバ ユーフォニアム
打楽器

声楽専攻

声楽 声楽演奏家コース

作曲指揮専攻

作曲 (芸術音楽コース)
作曲 (映画・放送音楽コース)
作曲 (ポピュラー・インストゥルメンツコース)
作曲 (ソングライティングコース)
指揮

音楽教育専攻

応用音楽教育コース
実技専修コース



付属図書館

付属高等学校

全日制課程音楽科

声楽専攻 器楽専攻 作曲専攻
音楽総合コース

付属幼稚園

付属音楽教室

付属民族音楽研究所

2. 沿革

明治40年5月	東洋音楽学校設立（神田区）
大正13年11月	豊島区雑司が谷（現南池袋）に移転
昭和22年5月	財団法人東洋文化学園と改称
昭和24年3月	東洋高等学校（音楽科）開設
昭和25年2月	東洋幼稚園開設
昭和26年3月	学校法人東洋文化学園認可
昭和29年2月	東洋音楽短期大学設置認可
昭和38年2月	東洋音楽大学設置認可
昭和44年8月	名称変更認可 学校法人東洋文化学園を学校法人東京音楽大学に改称 東洋音楽大学を東京音楽大学に改称 東洋高等学校を東京音楽大学附属高等学校に改称 東洋幼稚園を東京音楽大学附属幼稚園に改称 東洋音楽学校を東京音楽学校に改称
昭和45年3月	東洋音楽短期大学廃止認可
昭和51年7月	東京音楽学校廃止認可
平成5年3月	東京音楽大学大学院音楽研究科修士課程設置認可
平成25年10月	東京音楽大学大学院音楽研究科音楽専攻博士後期課程設置認可
平成26年4月	東京音楽大学大学院音楽研究科音楽専攻博士後期課程開設

3. 定員、学生・生徒・園児数（平成27年5月1日現在の人数）

	入学定員	収容定員	入学(園)者	在籍者
大学院音楽研究科博士後期課程	3	9	3	11
大学院音楽研究科修士課程	70	140	78	159
音楽学部音楽学科	310	1,240	316	1,383
附属高等学校音楽科	70	210	70	219
附属幼稚園	—	150	47	143
音楽教室(入室生+オープンシステム受講生)	—	—	25	74

4. 学校法人役員等（平成27年5月1日現在）

役員	理事長	鈴木 勝利			
	理事	野島 稔	佐々木正峰	高祖 敏明	保倉 裕
		佐々木 亮	丸山恵一郎	野本 正平	原山 耕造
	監事	吉田 恭治	福島 啓充		
評議員		野本 正平	西村 朗	大谷 康子	鈴木 信五
(就任順)		釜洞 祐子	菊地 麗子	坂崎 則子	武田 真理
		海老原直美	岡田 敦子	菅原 淳	小六禮次郎
		原山 耕造	稲葉 良太	在間 聡子	小村久米夫
		広上 淳一	鈴木 勝利	丸山恵一郎	
東京音楽大学長		野島 稔			
東京音楽大学副学長		野本 正平	堀 了介		
大学院音楽研究科長		野島 稔			
附属図書館長		坂崎 則子			
附属民族音楽研究所長		池辺晋一郎			
附属高等学校長		野本 正平			
附属幼稚園長		加納 里美			
附属音楽教室長		村上 隆			

5. 教職員数（平成27年5月1日現在）

大学	専任教員 126名	非常勤教員(含助手)320名	専任職員 69名
大学院		非常勤教員 5名	
付属高校	専任教員 12名	非常勤教員 31名	専任職員 2名
付属幼稚園	専任教員 8名	非常勤教員 7名	専任職員 1名
付属音楽教室		非常勤教員 10名	
付属民族音楽研究所	専任研究員 1名	非常勤教員 3名	

第二 事業の概要

総括

本学は、社会環境が大きく変化する中で、建学の精神、使命、目的及び3ポリシーを踏まえて、音楽家、教育者、研究者、企業人などの将来性豊かな人材の育成に資するため、教育の質を高め、学生・生徒たちの学習意欲の向上と達成感を充足する諸施策について積極的に取り組むこととしている。

平成27年度は、本学にとって歴史的な事業として第1は、念願であった新キャンパス用地（8,500㎡）を目黒区及び東京都から取得することができたこと。第2は、この用地取得を契機に、本学の教育研究の基本理念や中期的なビジョンを盛り込んだ「中期目標・中期計画（平成28年度から平成33年度までの6年計画）」を策定したこと。そして第3は、この時期に外部機関「公益財団法人 日本高等教育評価機構」による認証評価を受診し、「大学評価基準に適合していると認定する。」という評価結果を得たことである。

中期目標・中期計画の策定作業を進める中で、今後の重要課題として用地取得に伴う新キャンパス「中目黒・代官山キャンパス」の建設とそれに伴う教育研究環境の整備充実、付属高等学校の池袋キャンパスへの移転統合及びB館等の耐震化工事等のビッグプロジェクト、更には、学士課程教育に係る新専攻として「ミュージック・リベラルアーツ専攻」の設置等に積極的に取り組んでいく。

平成27年度事業として本学が取り組んできた主要な事業は以下のとおりである。

第三 項目別概要

1. 人事

(1) 人事計画留意点

学生にとって魅力的で、質の高い教育を提供できる教員を配置することが必要であり、計画的な新陳代謝を念頭に進めたため、専任教員は一時的に増員することとなった。

人件費削減については喫緊の課題であり、教員数についてはここ10数年来、学生数の減少に対応できておらず、今後の課題となっている。

① 教員について

専任教員：大学部門では126名で前年比4名増、法人全体では5名増。

非常勤教員：大学部門では320名で前年比3名増、法人全体では2名増。

② 職員について

専任職員：大学部門では69名で前年比3名減、法人全体では2名減。

(2) 研修会

① 平成27年4月7日

新任教職員研修会（出席者25名）

② 平成27年4月20日、21日

教職員研修会（出席者231名）

講師：鈴木勝利理事長、野島稔学長

原山耕造事務局長

③ 平成27年7月6日

教職員研修会（FD研修会 出席者149名）

講師：佐々木正峰理事

④ 平成27年8月6日、7日

事務職員基礎研修会（若手職員2名参加）

主催：私立大学庶務課長会

於：千葉工業大学津田沼キャンパス

2. 施設整備

目黒区及び東京都が募集した、目黒区上目黒一丁目土地約8,500㎡について、6月8日、本学チームが事業予定者に選定された。その後鋭意交渉を重ね、9月30日、当該土地について売買契約が成立し、所有権を得ることができた。以降、平成31年3月新校舎竣工に向けて、安全で魅力ある施設整備を行うため、キャンパス整備等検討委員会を中心に準備を進めている。また、平成28年度実施予定の耐震施工に伴う準備工事として夏期休業期間を利用して、B館レッスン室（全56室中27室施工）のリニューアルの実施、前年度から引き続き、整備計画に基づく各種設備機器の更新工事、トイレのリニューアル等を実施した。

<主な施設の改修工事>

- (1) B館4階女子・5階男子トイレリニューアル工事
- (2) B館レッスン室内装改修工事（5階～11階27室を施工）
- (3) J館スタジオ調光設備更新工事
- (4) J館受信高圧ケーブル更新工事
- (5) A館防犯カメラの更新工事
- (6) 附属高等学校外周・外壁部塗装補修工事
- (7) 民族音楽研究所 防音レッスン室改修工事
- (8) K館事務所施設改修工事他
- (9) 外部委託業務の見直し（警備会社の変更）

3. 入試・広報活動

本学及び付属高等学校への入学志願者数の増加を図るため、実技の優秀な学生の獲得や、各種音楽コンクールへ参加する学生・生徒を支援した。受験生向けの催しとして、オープンキャンパスを2回、体験レッスン(ピアノ・声楽)を5回実施した。広報の印刷物は、大学案内2016、東京音大ジャーナル(2回)、音大カレンダーを制作した。

4. 大学、大学院

(1) 学生募集

- | | | | |
|----------------------------|--------------------|------|------|
| ① 夏期受験講習会 | | | |
| 講習期間 | 平成27年7月27日～7月31日 | 受講者数 | 377名 |
| ② 指定校推薦入学試験 | | | |
| 試験期間 | 平成27年11月15日 | 受験者数 | 27名 |
| ③ 弦管打楽器優秀者選抜試験 | | | |
| 試験期間 | 平成27年11月15日 | 受験者数 | 8名 |
| ④ ピアノ演奏家コース・エクセレンス選抜入学試験 | | | |
| 試験期間 | 平成27年12月6日 | 受験者数 | 5名 |
| ⑤ ピアノ演奏家コース優秀者選抜入学試験 | | | |
| 試験期間 | 平成27年12月6日 | 受験者数 | 4名 |
| ⑥ 冬期受験講習会 | | | |
| 講習期間 | 平成27年12月23日～12月27日 | 受講者数 | 405名 |
| ⑦ 平成28年度大学入試センター試験 | | | |
| 試験期間 | 平成28年1月16日～1月17日 | | |
| 目白大学と共同実施 | | 受験者数 | 760名 |
| ⑧ 平成28年度一般入学者選抜試験 | | 志願者数 | 390名 |
| 試験期間 | 平成28年2月16日～2月20日 | 受験者数 | 379名 |
| | | 合格者数 | 296名 |
| ⑨ 平成28年度<声楽・器楽・音楽教育>特別選抜試験 | | 志願者数 | 30名 |
| 試験期間 | 平成28年3月22日～3月24日 | 受験者数 | 27名 |
| | | 合格者数 | 19名 |

(2) 教育課程

① 教職課程

教育実習、介護等体験については、ガイダンスや授業において学外講師を招き実践的な指導を行うなど、継続して事前指導を重ねた。教員採用試験については、教職特別演習のほか年3回の特別講座、先輩の体験談を聞く会などを企画し、学生の意識向上につなげ採用試験受験から合格までのサポートに努めた。

本学学生が在学中に小学校教諭2種免許状が取得できるよう、明星大学通信教育部との教育業務提携の準備を進め、平成27年度中に学内で、対象となる2年生6名を選抜した。選抜された学生は、平成28年度から2年間、同通信教育部に科目等履修生として在籍し、卒業時の上記免許状取得を目指す。

東京都教職員研修センターへの協力事業として、本学教員による教員専門性向上研修を初めて実施した。都内の現役音楽科教員178名が参加し、参加者アンケートにおいて高評価を得た。このことにより、受験生と接する立場にいる参加者に対し、本学の存在感を高めることができた。

② 上智大学との単位互換協定に基づく学生交流

上智大学の学生15名が、本学の授業10講座(44単位)を受講した。また本学の学生17名が、上智大学の春学期15科目(34単位)を、8名が秋学期7科目(16単位)をそれぞれ受講した。

(3) 演奏活動

① 演奏会

毎年継続して行っている本学主催演奏会8件の他に、『コハーン・イシュトヴァー ーン クラリネットトリサイタル』『東京音楽大学シンフォニック ウィンド アンサンブル特別演奏会』『東京音楽大学が奏でる黒姫童話館 ピアノコンサートVol.2』『東京音楽大学打楽器教員によるコンサート』『東京音楽大学&京都市立芸術大学交流演奏会 吹奏楽Vol.2』等の特別演奏会と、『マキシム・ヴェンゲーロフ ヴァイオリン公開マスタークラス』を開催し、国内外で活躍している演奏家との交流や、他大学との交流を図った。

また、外部団体主催の依頼演奏会では、シンフォニック ウィンド アンサンブルが『ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2015(有料公演)』に出演、その演奏がNHK-FMで全国に生放送され高評価を得た他、前橋市文化会館での『校友会群馬県支部創設20周年記念演奏会』にも出演、レベルの高い演奏を披露し群馬県内卒業生や中学・高校生を魅了した。シンフォニーオーケストラは、豊島区新庁舎落成記念イベントや台日文化交流親善演出『台美日青少年音楽演奏会』、長野県信濃町主催『癒しの森コンサートVol.5』『第6回 音楽大学オーケストラフェスティバル』に出演し好評を博した。合唱団も読売日本交響楽団、NHK交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉と共演し、どの演奏会も高い評価を得た。



打楽器教員によるコンサート



東京音楽大学 シンフォニックウインド アンサンブル 第46回定期演奏会

② 2015年度 第14回 東京音楽大学コンクール

平成27年度は、弦楽器部門と管打楽器部門を対象として実施した。それぞれの部門で5人の入賞者を選び、第1位～3位に賞金と賞状、入選者には賞状を渡した。

③ 招聘者による公開レッスン等

学生が本学のキャンパスで、世界の一流の音楽家からレッスンが受けられるように、招聘者による個人レッスン・公開レッスンを行った。平成27年度は20人を招聘した。具体的な目的は以下の3点である。

- ・ 西洋音楽発祥の地で活躍中の演奏家等を招聘することにより、文化的背景の理解と実技とをリンクさせた教育を行う。
- ・ 学内で通常行われているレッスン・授業の検証につなげ、本学の教員自身が世界に通用する指導プログラムの構想を練る動機付けにする等、教員にとってのFDとする。
- ・ 一流の演奏家と学生との交流を促し、音楽を通じた国際的ネットワークの形成をする。



ウィリアム・ベネット氏による公開レッスン



キャサリン・ピーターソン氏による公開レッスン

④ 楽譜や楽器の貸出等

2013年5月にFD委員会が行った学生アンケートの結果、要望の強かった演奏課の楽譜貸出時間と楽器室の楽器貸出時間の延長について、授業時間や練習可能時間に合わせた貸出を継続して行っている。また、A館学生練習室のピアノの朝チェック（火・木・土曜日の午前8時～9時に実施）も継続して行っているため、断弦やピアノ不具合の苦情は減少している。借用した楽器や楽譜の返却時間が守れない学生も多く、引き続きその趣旨を徹底した。学生サービス、学生指導の難しさを感じた1年だった。

(4) 音大連携事業及びACTプロジェクト

① 音大連携事業

平成27年度は、神戸女子学院大学音楽学部と本学は、それぞれの大学における授業やセミナー、ワークショップ等を中継して両大学の教育研究に資した。

② ACTプロジェクト

ACTプロジェクト（授業名：音楽キャリア実習）として、学生をホールコンサート、Jロビーコンサート、エリアコンサートの3チームに編成し、コンサートの企画立案、マネジメント、広報などを一貫して経験させ、音楽業務の実体験となる活動を行った。

(5) 学生支援

① 東日本大震災(平成23年3月11日発生)により被災した学生の被害状況に応じて、引き続き学費の免除などの必要な措置を講じた。

② 学生相談室をはじめ医務室、学生支援課等において、日頃の悩みや問題を訴える学生が年々増加している。平成27年度に学生相談室を利用した人数は72名(学生その他、保護者、教職員を含む)延べ418件の面談及び310件の連携活動を行った。

また学部・大学院生の全学年を対象にUPI (University Personality Inventory) 調査を実施。サポートが必要な学生を見極め、問題が深刻化する前に来談に繋ぐこととした。回収率94.2%、来談呼びかけ対象率19.9% (285名)

また「精神保健上治療を必要とする学生対応ガイドライン」を作成し、学生の精神的・身体的危機回避率を上げる努力をした。

③ 学業成績が優秀な学生・生徒、音楽活動に極めて優秀な成績を修めた学生・生徒に対し、奨学金制度を実施している。平成27年度は96名の学生・生徒に対し、奨学生として褒賞した。

④ 学生寮管理体制の充実強化に向けて、現在の寮生活に適した「寮生活の心得」を改正した。また、緊急災害に際し寮生の人命尊重を第一に安全かつ迅速に避難できるように地元消防署の協力を得て防災訓練(初期消火訓練、三角巾等)を実施した。

(6) キャリア支援

① 文化力発信プロジェクト (Spread-Project)

平成27年度は、これまで行ってきた長野県信濃町での活動に加え、6月にレインボウ21サントリーホールデビューコンサートで2015「アルカンからの手紙」の企画・運営、8月には羽田空港での7日間の音楽祭の開催、2月には歌手である加藤登紀子氏との共演コンサート「LIVE ORCHESTRA」の企画・運営を行った。



羽田空港での7日間の音楽祭



LIVE ORCHESTRA

② バイエルン州立青少年オーケストラ (b l j o) との提携

本学は、昨年度、b l j oとの正式提携を行い、夏・冬(年2回)各8名以上の学生が合宿と演奏旅行に正式参加することができるようになった。参加者は、オーディションにより選出する。

今年度は、バイエルン州政府の招聘により、ベルリンでの特別演奏会が開催された。



b l j oメンバーとの集合写真



合奏練習風景

③ 就職特訓講座

将来一流企業への就職を目指す学生に対し、35回の講座を実施し、特訓を行う。今年度約39名の学生が受講した。



面接対策の様子



SPI対策の様子

④ 各種資格試験等対策説明会

卒業後、社会に出た時に役立つ資格の試験対策説明会を開催。基本的な講座、7講座を全学年向けに開講した。

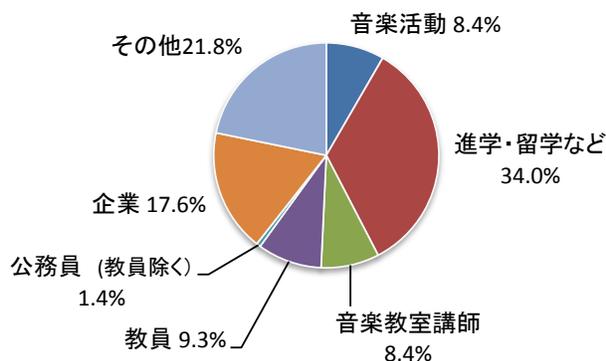
⑤ 企業説明会を開催

本学推薦企業による説明会を複数日にわたって実施した。企業のご協力のもと、本学学生に向けた説明会が行われた。

⑥ 卒業生の進路

国内外の大学院、音楽院や研修所などへの進学その他、演奏団体への就職、演奏活動、音楽教員、一般企業への就職等の進路を決めている。

<平成28年3月学部卒業生335名、平成27年9月学部卒業生8名、合計343名の割合>



(7) 国際交流

① 留学

ア. 短期留学

本学学部生及び大学院生を次のとおり派遣した。

- ・リュエイユ=マルメゾン地方音楽院 (11月4日から3週間、3月10日から2週間)
フルート 1名
- ・ザルツブルグモーツァルテウム国際サマー・アカデミー (7月・8月中の2週間)
声楽 4名
ピアノ 2名
弦楽器 2名 (ヴァイオリン)
- ・ギルドホール音楽院 (10月26日から3週間)
ピアノ 2名
- ・リスト音楽院 (11月2日から1か月) ピアノ 1名
(2016年3月15日から1か月) ピアノ 1名
- ・ロイヤルアカデミー・オブ・ミュージック (9月から1学期間) ピアノ 1名
- ・シベリウス音楽院 (9月から1学期間) ピアノ 1名
- ・ハノーファー音楽・演劇・メディア大学 (10月26日から4週間) ピアノ 1名

イ. 留学奨学生特別英語クラス（5月第2週～7月第1週の水・金）
短期留学奨学生を対象とした英語の集中講座を開き、留学先での英語のレッスンに備えた。

ウ. 留学相談
留学希望者を対象に随時相談を受け、必要に応じて提出資料に関する指導等を行った。

エ. 交換留学（新規）
ローマ・サンタ・チェチーリア音楽院との交換留学を開始した。
派遣 声楽2名
受入 作曲1名

- ② イングリッシュ・スタディー・センター
イングリッシュ・スタディー・センター（ESC）は、本学の学部学生、大学院学生及び附属高校の生徒の英語能力の向上及びこれを生かしたキャリア教育の推進を図ることを目的として平成26年10月1日に設置され、平成27年4月から陣容を整えて業務を開始した。具体的な業務内容は、以下の4点である。
1. 英会話サプリID制アカデミーパックとの契約により、スカイプによる英会話レッスン
 2. 外部講師、ロジャー・ジョーンズ氏とのスカイプによる上級英語レッスン
 3. イアン・ブキャナン氏（附属高校英語AT、イギリス国籍）の個人レッスン（27人が受講）
 4. 英会話サプリの効果測定のため、スピーキングテスト（Versant）、本テストを実施（延べ18人がテストを受験）

（8）大学院

大学院では、専門分野の力をより一層高め、総合的な知見と社会的・実践的能力を獲得して世界の第一線で活躍する人材を養成するため、平成26年4月1日に「博士後期課程」を開設した。

平成27年度は博士後期課程開設2年目にあたり、入学試験においては定員（3人）の約2倍の7人が受験し、3人が入学した。平成27年5月1日現在、1年生3人（チェロ2人、音楽教育学1人）、2年生8人（ピアノ4人、声楽2人、作曲1人、音楽学1人）の計11人が在籍し、それぞれが、将来の優れた音楽家、音楽教育者又は音楽学研究者を目指して、日々研究に励んでいる。

修士課程においては、教育体制を見直し、特色ある教育の実質化につとめるため、研究科委員会の下に作業部会を設置し、検討を重ねている。平成28年度入学試験においては、志願者数、受験者数、合格者数、入学者数に至るまで過去最高の人数を記録した。また、科目等履修生においても、入学試験に実技免除制度を取り入れて、志願者、受験者、合格者、入学者全てに過去最高数に達している。

- ① 博士後期課程入学試験（平成28年度）の実施
募集定員3人、志願者数8人、受験者数8人、合格者数6人、入学者数6人
- ② 博士課程委員会の運営
平成27年度は計12回開催。
委員構成：委員長（野島研究科長）、副委員長1人（岡田敦子教授）、委員 教員17人、職員2人 計21人
- ③ 博士後期課程学生の奨学金の選考
博士後期課程学生に係る奨学金の選考を博士課程委員会において行い、平成27年度は1年生1人・2年生3人（計4人）を甲種奨学生（年額50万円）、1年生1人を準特別奨学生（年額100万円）として選考。
- ④ 博士共同研究A第2回レクチャーコンサートの企画・実施
博士後期課程授業「博士共同研究A」の研究発表として、学生・教員によるレクチャーコンサートを平成28年1月9日（土）に実施。学内外に公開。来場者数55人。

⑤ 博士共同研究Bシンポジウム(+ミニ・コンサート)の企画・実施

博士後期課程授業「博士共同研究B」の研究成果発表として、学生・教員によるシンポジウム(+ミニ・コンサート)を平成28年2月13日(土)に実施。学内外に公開。来場者数51人。

⑥ 博士リサイタル試験の実施

博士後期課程の1年生2人(チェロ)、2年生7人(ピアノ3人、声楽2人、作曲1人)の博士リサイタル試験を実施。学内外に公開。来場者数は延べ410人。



博士リサイタル (ピアノ)



博士リサイタル (チェロ)

⑦ 博士後期課程設置計画履行状況等調査の結果

平成28年2月19日付けで文部科学大臣から、平成27年5月に本学が提出した「平成27年度設置計画履行状況等調査書」(大学HPに掲載)の結果について、前年度に引き続き、今年度も「大学設置・学校法人審議会大学設置分科会における審議の結果を踏まえ、意見は付さない。」こととした旨通知があった。

⑧ 修士課程入学試験(平成28年度)の実施

募集定員70人、志願者数115人、受験者数114人、合格者数91人、入学者数85人。

⑨ 大学院科目等履修生I入学試験(平成28年度)の実施

募集定員 若干名、志願者数・受験者数60人、合格者数56人、入学者数52人。

⑩ 大学院科目等履修生I入試の実技試験の免除

本学学部卒業見込みの者が大学院科目等履修生の入試を受験する場合は、卒業実技試験(作曲の場合は作品)の成績により、科目等履修生Iの実技試験を免除とすることとした。



大学院オペラ「夕鶴」



大学院オペラ「フィガロの結婚」



大学院オペラ「ヘンゼルとグレーテル」

5. ファカルティ・ディベロップメント (FD)

個々の教員のスキルアップを図るとともに、教員全体の組織的な教育力の向上・発展・成長を図るため、FD活動を推進している。

平成27年度は、前年度に引き続き、FD委員会による次の事業を実施した。

① 学生生活アンケートの実施

4月のガイダンス時に、新入生を除く全学生に対して、学生の学修行動・学修環境・学修成果を中心としてアンケートを行い、結果を冊子にまとめた。

② レッスンアンケートの実施

昨年度は座学系の科目を中心にアンケートを行ったが、今年度はレッスンを中心に、アンケートを行った。
集計結果と学生の自由記述及び、結果に対する教員所見 (=授業改善計画書) と分析を加わえて冊子にまとめ、レッスン担当教員へ配付した。

③ 大学院アンケートの実施

3月19日に大学院修了生を対象としてアンケートを行い、結果をパンフレットにまとめた。大学院アンケートでは、院生は学部生より主体的な学習を行っていることを考慮し、毎年、自由記述のみのアンケートである。

④ 教職員研修会の実施

7月6日に「大学の将来像を考えるために」と題して、大学の現状と課題、そして期待される大学像などについて、本学理事である佐々木正峰氏に講演して頂いた。

⑤ FD通信の発行

「東京音大FD通信」を28号、29号と2回発行し、全教職員へ配付すると共に、FD意識の涵養に務めた。

6. 自己点検・評価

大学は学校教育法で7年以内毎に教育研究、組織運営及び施設設備面など、総合的な評価を評価機関から受けることが義務付けられており、本学は平成20 (2008) 年度に初めて日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、大学評価基準を満たしていると認定されているが、平成27 (2015) 年度は2度目となる認証評価を受審し、今回も「大学評価基準を満たしている」との認定を受けることができた。

本学の「自己点検評価書」

<http://www.tokyo-ondai.ac.jp/tenhyou/pdf/2015tenkenhyoukasyo.pdf>

日本高等教育評価機構からの「認証評価書」

<http://www.tokyo-ondai.ac.jp/tenhyou/pdf/h27kikannisyouhoukoku.pdf>

7. 教員研究費

- (1) 東京音楽大学教員（専任）個人研究費
- ① 申請教員数 91名（専任教員125名の72.8%）
 - ② 申請総額 16,670,997円
 - ③ 申請総額中の図書費総額 3,339,603円（申請総額の約20.0%）
- (2) 文部科学省科学研究費補助金
直接経費合計5,500,000円、間接経費合計1,650,000円 総合計7,150,000円
- <内訳>
- ① 本学教員が研究代表者であるもの（新規3件、継続3件）
直接経費小計5,740,000円 間接経費小計1,722,000円 合計7,462,000円
 - ② 本学教員が研究分担者であるもの（新規1件、継続2件）
直接経費小計 240,000円 間接経費小計 72,000円 合計 312,000円

8. 地域連携

「豊島区と区内大学との連携・協働に関する包括協定」（平成19年11月19日）に基づき、豊島区と区内6大学の連携・協働による「としまコミュニティ大学」に参画し、区民の方々を対象とした講座を行った。



としまコミュニティ大学
開講記念講演 ～クラシック音楽の基礎知識～



としまコミュニティ大学
～能の世界～

また長野県信濃町、信濃町森林療法研究会「ひとときの会」との連携協定（平成24年2月22日）に基づき、シンフォニーオーケストラの合宿（9月3日～6日）を行う傍ら、学生達は黒姫山麓の癒しの森を体感した。合宿の最終日には、信濃町小中学校吹奏楽部も参加して、「第5回 癒しの森コンサート」を行い、お客様の手拍子で温かな雰囲気に包まれた。



信濃町小中学校吹奏楽部との合同演奏



信濃町総合体育館にて

平成27年度の主な地域連携事業は以下のとおり。

- ① としまコミュニティ大学
- ② みないけコンサート（豊島区南池袋小学校主催）
- ③ 区民ひろば回遊音楽キャラバン（豊島区主催）
- ④ 第5回 癒しの森コンサート（長野県信濃町森林療法研究会と連携協定）
- ⑤ 豊島区庁舎ロビーコンサート（豊島区主催／昭和63年から実施）
- ⑥ Jロビーコンサート（平成21年度から豊島区後援）

9. 後援会、校友会等との連携

校友会支部主催演奏会により、本学と後援会、校友会との連携を強化し、絆と信頼を深め、交流・協力体制の一層の充実を図った。後援会からは、在学生が出演する校友会(卒業生の組織)全国各支部主催の演奏会に対し、助成を行っている。

- ・東京音楽大学校友会 第12回総会
日時：2015年5月10日(日) 14時30分開始 15時30分終了
会場：東京音楽大学A館 200教室
- ・東京音楽大学後援会 第15回総会
日時：2015年5月30日(土) 13時00分開始 14時00分終了
会場：東京音楽大学J館スタジオ
- ・東京音楽大学校友会支部演奏会
実施回数：24回(全34支部の内、24支部が実施)
ゲスト演奏者としての本学教員派遣回数：22回

10. 付属図書館

加速度的に変化・進展する情報化社会において、大学図書館が担うべき情報リテラシー教育の充実強化が求められている。

このような社会的な要請も考慮しつつ、本学の新キャンパスの取得整備に伴う図書館業務の改善・充実を視野に入れながら、日々の利用者の要望に応じて、大学図書館運営とその業務を推進した。

今年度実施した図書館の主要な業務は、下記のとおりである。

- (1) 資料の選書・収集・整理・OPAC公開、専用システム上での運用管理
- (2) 学修の場の提供と利用者教育の強化
- (3) 機関リポジトリの公開と運用開始
- (4) 展示・イベント等による成果発表と地域貢献
- (5) 紀要、大学院論文集等の編集、発行とリポジトリでの公開
- (6) 寄贈資料の整理・運用と貴重資料のマイクロ化・デジタル化
- (7) 移転に伴う図書館機能の充実と業務の見直し



リユートコンサート



展示 バッハの神学文庫

11. 付属高等学校

東日本激甚災害の翌年度の生徒の入学者数は63人と大きく落ち込み定員(70人)を割ったが、その後、平成25年度は84人、平成26年度は71人、平成27年度は77人と過去3年間は定員を満たしてきたが、今後とも細心の注意を払い、付属高校の特徴を生かした施策が必要である。平成27年度の付属高校における主要な事業は以下の通りである。

- (1) 教学、広報活動に関する事業の実施
 - ① 生徒募集に関しては、学校説明を実施
 - ② 新たに海外日本人学校において学校説明会を行い、帰国子女の入学増を図った
 - ③ 高校移転後の飛び級制度の在り方を検討
 - ④ 本校主催の各種演奏会を例年通り実施
 - ⑤ 「ハワイ大学語学研修旅行」を例年通り実施するとともに、オーストラリアの音楽高校との新たな交流計画を作成

- (2) 中期計画に関する事業の実施
- ① 附属高校移転を見据え、新たに高大連携カリキュラム検討委員会、移転委員会及び移転申請書類準備委員会を設置
 - ② 高大合同カリキュラム構築のため、ソルフェージュ系、語学系、アンサンブル系の3検討会を設置
 - ③ 音楽総合コースの内容変更を検討し、大学の音楽教育専攻及び新設予定のミュージックリベラルアーツ専攻への進学を視野に入れた教育内容の検討を実施
 - ④ ピアノ・創作コースの入学生の確保についての具体的な検討
 - ⑤ 留学生獲得のための広報活動と日本語教育の検討
- (3) 施設、設備に関する事業の実施
- ① 校舎前面の塀の改修工事
 - ② 楽器の新規購入（ピアノ）と修理の実施
 - ③ ホールの反響板の設置
- (4) 第4支部の活動
- 平成27年度東京私立中学高等学校協会第4支部長校及び東京都私立中学高等学校父母の会中央連合会第4支部長校としての任務を無事に終了

12. 附属幼稚園

平成27年度は3年保育44名、2年保育3名、計47名の新入園児を迎え、年少44名、年中50名、年長49名の合計143名でスタートした。総在園児数は前年度の在園児総数134名から9名の増加となり、運動会や演奏会、その他各種行事も盛況に終えることができた。預かり保育の利用者も前年度以上に増え、全学年を合わせると一日平均約50名の利用があった。

“音楽大学の附属幼稚園”であるという最大の特色を生かした、保育の更なる充実を図り、また社会のニーズとのバランスをとりながら、魅力あふれる幼稚園となるよう努めていきたい。

13. 附属音楽教室

4歳児～中学3年生を対象に、実技レッスンとソルフェージュ授業を2本柱とした総合的な音楽教育を行い、テクニックだけに偏らず、聴く人の心に響く音楽性を育てている。

試験や演奏会では同年代の生徒同士が互いに切磋琢磨することによって、教室全体の更なる向上を目指している。外部のコンクールでも多くの生徒が優秀な成績を収めている。

また附属幼稚園から附属高等学校への橋渡し役の第一歩として、附属幼稚園からの入室生徒のきめ細かい指導にあたり、優秀な生徒を附属高校へと繋げていくよう配慮している。

さらに、外部の優秀な生徒の獲得を目的として平成21年度から開設した「オープンシステムコース」では、入室生と同様の専門的なソルフェージュ授業に加え、一般のピアノ教室では得られない高度な音楽的指導を行った。このコースの受講者のうち、平成27年度末には3名が入室生へのコース変更をしており、着実に附属高校への進学希望者の獲得に繋がっている。

平成27年度に実施した音楽教室演奏会は次のとおり。

- ・ 学外演奏会：平成27年7月20日（月・祝） トッパンホール
- ・ 学内演奏会：平成27年11月14日（土） 本学100周年記念ホール

14. 附属民族音楽研究所

主としてヨーロッパの音楽を研究、教育している本学に於いて、日本民族として音楽の世界における我々の位置を知る事は極めて重要である。

附属民族音楽研究所では、その見地から本学学生に対して、音楽の民族的多様性を知ってもらうと同時に、個々の音楽スタイルの固有性について、研究や資料を提供している。

(1) 学内授業展開

学内においては、全学年の学生に対して「ガムラン演奏実技・合奏クラス」「アジア音楽の理論と奏法」を開講し、日本伝統音楽・ガムラン音楽・インド音楽等多様な音楽に触れ、異文化音楽を理解する一助とした。

(2) 一般社会人向け事業展開

- ① 千代田区立日比谷図書館主催の「日比谷カレッジ」に企画協力と講師派遣を3回実施、来年度も継続予定。
- ② としま未来文化財団・豊島区主催「オーケストラと映像で描く手塚治虫のマンガとアニメの世界」の企画協力・指揮、及び学部授業『ガムラン演奏実技』履修生による「ガムラン演奏」を実施。
- ③ 本学付属図書館のレクチャー「五感で愉しむ伊福部昭」に企画協力及びレクチャー講師。

(3) 公開講座

- ① リズム楽「音楽と生活のエヴォケーション」
- ② 「伊福部昭の遺した楽器～明清楽器を聴く【その五】」
- ③ ジャワ・ガムランの合奏のしくみ～演奏・舞踊とワークショップ～
- ④ 「楽器に見る東西交流：ウッドとリュート」



日本とアジアの
民族楽器



伊福部昭の遺した楽器
明清楽器を聴く【その五】



ジャワ・ガムランの
合奏のしくみ

(4) 民族音楽研究

- ① 「研究紀要」発行（電子版も同時発行）
- ② フィールドワーク：ジャワ島(平成27年8月)、沖縄(平成28年3月)の現地調査

(5) 所有楽器・資料の活用

- ① 「明清楽器」一部を平成28年1月23日～2月20日まで豊島区中央図書館の特別展示に貸し出した。
- ② NHK Eテレ「伊福部昭の世界～ゴジラを生んだ作曲家の軌跡」に資料を提供した。
- ③ NHK Eテレ「日本の芸能・作曲家 伊福部昭の世界」に資料を提供した。
- ④ 図書館主催「生誕100年記念特別展示～五感で愉しむ伊福部昭」に資料提供した。

15. 財務報告（別冊）